

中等教育研究開発室年報 第33号 (2020年3月31日発行) 別冊電子版
2019年度 授業実践事例

英語科 高等学校第Ⅱ学年・中学校第3学年

40人学級における学びの単位～一斉・協同・個別ハイブリッド型への挑戦～

授業者 山岡 大基

(校内研究授業)

広島大学附属中・高等学校

高等学校 外国語科（英語） 学習指導案

指導者 山岡 大基

- 日時** 令和元年7月4日（木） 第7限 15:20～16:10
- 場所** 第1研修室
- 学年・組** 高等学校Ⅱ年3組43人（男子25人 女子18人）
中学校3年A組40人（男子19人 女子21人）
- 単元** 高等学校Ⅱ年 「まとまりのあるスピーチ」
Lesson 4 If I were the Principal (*Mainstream English Expression II* 増進堂)
中学校3年 「会話の継続」
Lesson 3 Rakugo Goes Overseas (*New Crown English Series 3* 三省堂)
- 目標** 1. 即興スピーチにおいてまとまった構成で話す。
(高校Ⅱ年生：思考力, 判断力, 表現力等)
2. 会話において自分のターンを維持する。
(中学3年生：思考力, 判断力, 表現力等)

指導計画（全7時間）

- 第一次 教科書本文の内容・言語材料の理解 2時間
- 第二次 まとまりのある英文の話し方・書き方の理解 2時間
- 第三次 互いに自分の意見をまとまりのある英文で述べ合う練習
会話で得た情報をまとまりのある英文で書く練習 3時間（本時 6/7）

授業について

本単元では、「話すこと」に焦点を当てる。学習指導要領における指導事項は以下のようになっている。

中学校（平成20年（現行）版）

イ 話すこと

（ウ）聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

（エ）つながぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。

中学校（平成29年（新）版）

(3) 話すこと [やり取り]

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

高等学校（平成21年（現行）版）

英語表現Ⅱ

ア 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。

高等学校（平成30年（新）版）

論理・表現Ⅱ

(1) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用

すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。

(2) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

両学年とも、「即興で」という条件のもと、中学3年生では「会話の継続」、高校Ⅱ年生では「まとまりのある構成でのスピーチ」を目標とする。学習指導要領の枠組みでは、前者は「やり取り」、後者は「発表」、という異なる技能に分類される。しかし、会話であっても、継続させるためには自分の発話量をある程度確保し、自分のターンを維持することが必要になる。すなわち、言語活動の外形としては「やり取り」に属するが、そこで目標としている技能は「発表」と重複する。そのような考え方から、本単元では両者を一体的に扱う。

なお、本単元では高校Ⅱ年生と中学3年生の合同授業を行う。高校Ⅱ年3組はASコースとして学校設定科目「サイエンス・コミュニケーション」を受講しており、英語プレゼンテーション技能を集中的に学習している。したがって、「話すこと」については比較的多くの経験があり、その経験も活用しながら、中学3年生に助言することを期待している。また、下級生への助言を通じて、自らの学習を振り返り、知識を整理することも期待している。

題 目 40人学級における学びの単位 ～一斉・協同・個別ハイブリッド型への挑戦～

本時の目標

1. 即興スピーチにおいてまとまった構成で話す。
(高校Ⅱ年生：思考力、判断力、表現力等)
2. 会話において自分のターンを維持する。
(中学3年生：思考力、判断力、表現力等)

本時の評価規準（観点／方法）

1. 即興スピーチにおいてまとまった構成で話すことができる。
(高校Ⅱ年生：思考力、判断力、表現力等／パフォーマンステスト（後日）)
2. 会話において自分のターンを維持することができる。
(中学3年生：思考力、判断力、表現力等／パフォーマンステスト（後日）)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
帯活動	リスニング練習 (All Ears)	短時間で簡潔に行う。
本時の目標の確認	「話題を掘り下げたり広げたりして自分のターンを維持する」	前時までに中学生が高校生からもらったアドバイスを確認する。(ストーリー, 全体→細部, 自分のこと, つなぎ言葉等)
会話練習 (1)	中学生+中学生 題材: Picture Description No. 5	高校生は中学生のパフォーマンスを注意深く観察し, 改善点を見つける。
フィードバック(1)	高校生からの助言 言えなかった表現のカバー	
会話練習(2)	中学生+高校生 題材: The Truth about Bottled Water	高校生ができるだけ会話をリードする。
フィードバック(2)	高校生からの助言 言えなかった表現のカバー	
会話練習(3)	中学生+高校生 題材: Perspective Pictures p.21	これまでの学習事項や助言を意識しながら発話する。
単元全体の振り返り		
備考		

An Intensive Course on English Speaking Skills

July, 2019

Goals

11th Grade: To learn to organize one's ideas into a coherent structure in unprepared speech

(即興スピーチでまとまった構成で話す)

9th Grade: To learn to maintain one's turn in conversation by developing the topic

(会話で自分のターンを維持する)

Grade Class Student No. Name

DAY 1

今日の主役・・・ 高校生

今日の脇役・・・ 中学生

学習目標・・・ Body に入るまでの時間を稼ぐ Introduction

ポイント

Introduction		Idea Generation + Key Words ←		
Body	1	General Ideas	Cause	Example 1
	2	Specific Details	Effect	Example 2
Conclusion		Review		

脇役の仕事・・・ 観察から学ぶ

- ・speaker はどんな工夫をして時間稼ぎをしているだろう？
- ・自分でも使えそうな表現・使いまわしの利く表現はないか？

Notes and Reflections

Multiple horizontal dashed lines for writing notes and reflections.

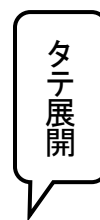


DAY 2

今日の主役・・・ 中学生

今日の脇役・・・ 高校生

学習目標・・・ 相手から受け取ったトピックを Develop する(1) 具体化・掘り下げ



ポイント

Ukeru (Respond)		Answer, Agree/Disagree
Fukuramaseru (Develop)	1	Details, Examples, Background ←
	2	Additional Information, Related Topics
Okaeshisuru (Return)		Questions, Comments

脇役の仕事・・・ 改善点を見つけて助言する

- ・speaker はどんな工夫をすれば、より上手に develop できる？
- ・中学生でも使えそうな表現・使いまわしの利く表現はないか？

Notes and Reflections

A series of horizontal dashed lines for writing notes and reflections.




DAY 3

今日の主役・・・ 高校生

今日の脇役・・・ 中学生

学習目標・・・ 話しながら即興で Body を整える

ポイント

Introduction		Idea Generation + Key Words		
 Body	1	General Ideas ㊦	Cause ㊦	Example 1 ㊦
	2	Specific Details ㊦	Effect ㊦	Example 2 ㊦
Conclusion		Review		

脇役の仕事・・・ 話を聞きながら、自分だったらどのように会話を展開するか
シミュレーションする。

- ・speaker はどのように話を develop して Body を作っているか？
- ・自分でも使えそうな表現・使いまわしの利く表現はないか？

Notes and Reflections

A series of horizontal dotted lines for writing notes and reflections.

DAY 4

今日の主役・・・ 中学生

今日の脇役・・・ 高校生

ヨコ展開

学習目標・・・ 相手から受け取ったトピックを Develop する(2) 話題の拡張・転換

ポイント

Ukeru (Respond)		Answer, Agree/Disagree
Fukuramaseru (Develop)	1	Details, Examples, Background
	2	Additional Information, Related Topics
Okaeshisuru (Return)		Questions, Comments

脇役の仕事・・・ 改善点を見つけて助言する

- ・speaker はどんな工夫をすれば、より上手に develop できる？
- ・中学生でも使えそうな表現・使いまわしの利く表現はないか？
- ・タテ展開が十分にできているか？ (トピックを掘り下げないままに、別の話題に移っていないか？)

Notes and Reflections

A series of horizontal dashed lines for writing notes and reflections.



Materials

(著作権の関係上, 教材は不掲載)

- 1) 英検準2級程度の英語長文
- 2) 英検準2級程度のイラスト
- 3) リスニング教材
- 4) 写真描写課題

実践上の留意点

1. 授業説明

本実践は、『学ぶ』から『探す』へ ― 中・高6ヵ年の学びの地図― という研究開発主題を、外国語科として実現する方向性を探るための実験的な性格を持つものである。ここで言う「学びの地図」とは、生徒自身が、短期・中期・長期にわたって自分の学びをデザインしていく助けとなるような、将来的な学習の展望のことである。そのような展望を生徒にどのように持たせるかが実践上の課題になるわけであるが、本実践では、異学年の生徒を混在させるという手段を試みた。すなわち、下位学年の生徒にとっては、英語学習者としてより熟達した上位学年の生徒のパフォーマンスを観察することで、近い将来に自分の英語力がどのように伸びているかの具体的なイメージを持ち、学習の方針を得る効果を期待する一方で、上位学年の生徒にとっては、下位学年のパフォーマンスを観察することで、現時点で自分ができていることを明示的にとらえ、なぜ自分はそれができるのかをメタ認知すること、そして、いわばそのような「来し方」の理解を、「行く末」つまり、さらに自分の力を伸ばすことに活かす指針を得る効果を期待した。

授業の構成にあたっては、中学3年生1クラスと高校Ⅱ年生1クラスを単純に混ぜた合同授業とし、1週間4回で1単元を構成した。各回の授業目標は、明確に高校生もしくは中学生をターゲットとし、そのことを生徒に明示した。高校生対象の授業では、中学生に対しては高校生の学習活動を観察したり、あるいは活動に周辺的に参加することで、自分の学力向上のためのヒントを得るよう指示をした。一方、中学生対象の授業では、高校生に対しては中学生の学習活動においてアドバイザーの役割を果たすことを求め、中学生のパフォーマンスをよく観察して助言したり、あるいは活動において「お手本」を示したりすることで、中学生の学習を支援することを求めた。学習活動は固定グループで行ったため、高校生からの助言は授業者が集約し、次回の授業でかいつまんで全体で紹介することにより、異なるグループでの多様な助言を、クラス全体として共有できるように配慮した。

授業者1名に対して80名超の生徒が一堂に会して学習するため、授業者からの個別の生徒に対する細やかなケアはほとんど不可能な環境であり、そのことは生徒の目にも明らかであった。そのことがかえって生徒の自律的な学習を促した面もあり、特に高校生の責任感の強さのおかげもあって、個別グループでの学習では、授業者の介入がなくても、中学生と高校生でお互いにやり取りをしながら学習を進める姿が観察された。

2. 研究協議より

上記の通り、本実践では、異学年の生徒集団の相互作用から生徒自身が学ぶことを期待した。したがって、授業の大枠としての目標は授業者が設定したが、その目標に向かう中で生徒が実際に何を学ぶかについては、授業者の意図性はかなり抑えられている。また、学習活動の性質も、多様な回答を許容あるいは奨励する拡散的 (divergent) なものであった。このことに関して、明確な目標設定と、そこからの「逆向き設計 (backward designing)」という、意図的・計画的に学力向上を目指す授業設計思想とは相容れないのではないかと、という指摘があった。この指摘は的を得たものであるが、同時に、以下の回答も付した。授業者自身は、収束的 (convergent) な授業設計を否定するものではないが、少なくとも本実践に関しては、そもそも実験的な取り組みであるため、授業者が牽引するのではなく、実際に生徒の中で何が起こるかを見極めたい意図があった。また、本単元の枠内に限れば拡散的で授業者のコントロールは低かったが、中長期的な視野において本単元での生徒の実態を形成的に評価し、次の単元以降の指導を構想するという面もあるので、まったくゴール思想のない完全なオープンエンド型の指導というわけではない。